

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

中国 上海日本語補習クラブ 代表 金田 宏香

① 学校の規模や子どもたちの実態

- まず初めに、当校のような設立から日も浅く小規模な学校にも、このような機会をいただきありがとうございます。新型コロナウイルスの影響をいち早く受けた学校として、当校の取り組みをみなさまと共有し、記録として残ることに感謝申し上げます。
- 上海日本語補習クラブ(補習クラブ)は、2013年に保護者7人とその子供9人でスタートし、2018年に政府援助対象校となりました。
遅咲きながらも大陸では一番規模が大きく、小学1年生から高校生まで約70人が在籍しております。
国語を始め、生活・社会、作文等の授業を6名の講師が担当し、運動会、学習発表会、社会科見学など行事も大切にしております。

- 子供たちの普段の学校は春節前から冬休みで、補習クラブも2週に渡りお休みとなっており、日本に一時帰国していたり旅行に行っていたりと1月末から多くの家庭が上海を離れていました。実は1月末の時点で、この騒ぎは簡単には終わらないだろうと思い、近隣補習校と連絡を取ったり、各方面へ情報収集を始めていました。
- その後、今後の活動について保護者へアンケートを取る事にしましたが、これが大きな壁でした。『どうやってアンケートを作るか・・・』
- 中国はインターネットの接続規制があり、LINEはもちろん、googleやyahoo 検索等が出来ません。日本に滞在していた私は取りあえずgoogleでアンケートを作成し、回答が難しい方には連絡ツールとして使用している中国版LINE (wechat) で回答してもらう事にしました。この様な臨機応変な対応が出来たのは、不便ながらも小規模校ならではのだったのかもしれませんが。

- アンケートの回収は2月中旬で、当時は今ほど感染が拡大するとは予想していなかった事もあり、先生からの課題提供やオンライン授業を希望する割合は、どちらもそれほど高い数値ではありませんでした。
それでもオンライン授業の希望が一定数あったのは、子供たちが普段通う学校の休校が春節休み後も余儀なくされるも、すでにオンライン授業が始まっていたり、準備をしている学校があったりと、保護者の理解が得やすかったのかも知れません。
現地校や国際学校問わず、学校の対応の素早さには本当にびっくりしたものでした。

- アンケート結果を基に2月下旬より先生から課題提供をしてもらい、3月いっぱい家庭での学習継続となりました。当初は3月からの『zoom』実施を予定していましたが、子供たちの普段の学校のオンライン授業が始まったばかりという事もあり、ストレスや眼の保護などの点からもしばらく様子を見ることになりました。補習クラブでは不安や心配なく“zoom”を実施出来るように、3月中旬インストラクターによる『先生用講習会』と『子供向け体験会』を企画しました。『子供向け体験会』では先生方にも参加してもらい、画面越しに久しぶりにお友達や先生と再会し、おしゃべりをして、本当にみんないい顔をしていたのです。そんな様子を見ていて、卒業式・修了式をどうにか実施出来ないかと思うようになりました。
- 3月末、準備時間が無い中でのzoom卒業式・修了式は、想像を遥かに越える感動的な式典となりました。卒業証書を画面越しに授与し、卒業生からの思い出のことばや担任の先生からの祝辞など、時間を共有することがこんなにも感動を生み幸せな気持ちになるものだ実感した瞬間でした。この出来事は新学期からオンライン授業を実施する大きな希望となりました。

- すでに入学が決まっていた新1年生の保護者へ現状の説明をしたところ、何と8名から入学希望のお返事をいただき、本当に嬉しく思いました。と同時に改めて補習校の責任を強く感じたのでした。新1年生にも『zoom体験会』を実施し、4月11日(土)zoomにて入学式・始業式を開催しました。新入生の名前をひとりひとり呼び、在校生や担任の先生からのお祝いの言葉、来賓からの祝辞など、短い時間ではありましたが、きっと良い思い出になった事でしょう。そしてこの日は、全学年でzoom授業がスタートした記念すべき日となりました。

- しかし不便な点は今も改善されておられません。それは教材が先生や子供たちの手元に無いこと。今年度は小学部で教科書改訂があり、注文した指導書は物流がストップしたまま発送もとで止まっており、また教科書ワークやドリルなどは注文のタイミングが中国での感染拡大と重なり、注文すら出来ておられません。こんな状況でも、先生方は子供たちのためにさまざまな工夫をし授業をしてくれています。楽しそうに授業を受ける子供たちの笑顔に保護者もきっと励まされている事でしょう。

しかしここに来てまた新たな問題発生です。順調に実施していた“zoom”が突然中国で使用出来なくなったのです。アカウントを変えたり他のシステムに移行したりとまだまだ気が抜けない緊張状態が続いておりますが、海外で生活しているという事は日常茶飯事、運営委員を中心にみんなで協力してこの有事を乗り切ろうと思います。

- 最後にこの寄稿がみなさまのお目に触れる8月、いったい補習クラブの再開の目途はたっているのでしょうか。そして世界はこの新型コロナウイルスとどのように共存しているのでしょうか。
明るい未来であって欲しいと楽しみにしつつ、今はただ『子供たちのために出来ること』を考え活動してまいります。